

## 大不況期の過ごし方を考える

- 現状をしっかりと見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：日本を含め世界中で大不況のようですね。

A：(林明夫：以下省略)その通りです。1929年からの世界大恐慌のようにならないように、日本や世界のリーダーたちが立ち上がり、各国が力を合わせながら、各々国としてできる最大限の努力をしています。

Q：このような大不況の時期は、どのように過ごしたらよいとお考えですか。

A：まずは、現状をしっかりと見すえることが大事と考えます。各国の歴史や世界史の教科書に必ず載るような出来事が、何週間か前から発生しています。新聞を毎日一面からしっかりと読んで、日本や世界で何が起きているのか、日本や世界のリーダーたちは、それにどう対応しようとしているのかを「理解」して下さい。「新聞を読んで自分の力で考える」ことが、今ほど大切な時期はありません。

Q：日本や世界の現状を「理解」した上で、何をしたらよいのでしょうか。

A：大不況という時代に合った生き方をする以外にありません。大不況という時代は、お金がどんどん出ていく割にはお金が入ってこない、つまり「金まわり」が極端に悪くなる時代です。そのような時代に、自分で自分の身を守るために一番よいのは、「もったいない」の生き方に徹することであると私は思います。ものを大切に大切にすること。お金は大切に使うこと。今やっていることを大切に、まじめにしっかりと行うことが大切です。

Q：例えば、どのようなことですか。

A：(1)今、学校で学んでいる人は、この大不況の時期に「学校で学ぶことができること」を大切に考えて、今、学んでいることを学校にいる間にしっかりと身に付けることです。

「ノート」や「筆記用具」は最後まで使い切る。「教科書」や「参考書」はスミからスミまでしっかりと「理解」した上で「覚え切る」。教室など学校の施設や自宅の自分で使う部屋を整理整頓(せいりせん)し、いつまでも使えるようにする。

(2)食べ物は、自分で食べられるだけ食器に取り、ゆっくりとかみしめながら食べ、残さないようにする。

(3)病気がある場合は、どんどんお医者さんに診てもらい、全力を傾けてできるだけ早く治すようにする。病気とは真正面から闘う。できるだけ病気にならないように、最大限気をつける。(外から帰ったら、薬用石けんで手のくるぶしまで2回洗い、うがいを何回もすることで、病気にならないようにする。食後の歯みがきは、おっくうがらないで毎食後確実に。歯科医院に定期的に行き、虫歯をつくらない。etc.)

Q：随分(ずいぶん)基本的なことですね。

A：この大不況は、これから何年間か、日本だけでなく世界中で続くと思われます。学校を卒業した人が仕事に就くことが難しい、今仕事に就いている人が仕事を失うことも多くなる時代に入っていく可能性が極めて高い時代に、日本だけでなく世界中が入っていくとも思われます。

ですから、学校で学ぶ皆様も含めて、この世の中で生きている人は一人残らず、新聞を考えながら読むことで、今世の中で起こっている現実をしっかりと冷静に認識した上で毎日の生活をしっかりと見つめ、一步一步着実に、今やれることを確実にやり抜くことが求められると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：このような時こそ、「何のために自分は生きるのか」、「どのような生き方を自分はしたいのか」、「何のために上級学校に進学するのか」、「そのためには今何をしなければならないのか」などの一見難しいと思われることを、腰を落ち着けて深く考えることが大事かと思います。

人間の歴史の上で、今日ほど物があふれ、お金や情報が行き交う時代はありません。今でも、明日食べる物がなく生活に困っている人々は何十億人もいます。日本にもそのような方はたくさんいます。たとえ小学生、中学生、高校生であろうと、日本や世界の現実を自分なりに直視し、自分の生き方を自分の力で決め、自分の責任で生き抜く時代に入ったと私は考えます。

一番大切なのは、「高い志(こころざし)」です。自分に与えられた社会的使命(mission、ミッション)とは何かを自覚して、一生を生き貫くこと。「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい熱心に」、勉強に、仕事に、社会活動に、また、よい家庭をつくる、よい地域社会をつくるために、一人ひとりがその人なりに努力をする。このような生き方が求められるのが、既に迎えてしまった大不況の時代であると私は考えます。皆様は、どのようにお考えになりますか。

- 2008年10月16日記 -

御参考までに

(1)「読書の秋」です。このような時代にこそ、人々は困難な時代をどのように乗り切ったかを知るために、日本や世界の人々の「伝記」をじっくりと読むことをおすすめします。

一番のおすすめは、幕末から明治維新を生き抜いた福沢諭吉の「福翁自伝(ふくおうじでん)」です。シュリーマンの「古代への情熱」も、何のために生きるのかを考える上でとても参考になります。「伝記」を読んで興味がわいてきたら、その当時の歴史や地理などを調べてみると、よい勉強になります。

(2)この秋に皆様の前で起こっている世界恐慌発生寸前の大不況や、世界中がスクラムを組んでそうならないように取り組んでいることは、何十年後に日本史や世界史の教科書に必ず載るような内容です。そのような日本や世界の歴史の上で重要な出来事のまっただ中に、今我々は暮らしていることを考え、新聞だけは毎日一面からじっくりなめるようにお読みになることを、また、大切と思われる記事は切り抜き、スクラップブックに貼り付けておくことをおすすめします。